目次

まえがき……5

第一部　序　論

第一章　字余り研究小史……15
第二章　字余り論の陥穽……28

第二部　本　論

第一章　字余りの一般原理……51

序……51

一　和歌の読唱法……53

1　日本語の発音……53
2　律文の音律構造……56
3　七音・五音の必然性……60
4　和歌の分節法……63
5　唱えごととと延声……65
6　読唱法をさぐる……72

7　和歌の読唱法　…77
二　読唱法と字余り・非字余り　……80
1　読唱法と非字余り　…80
2　読唱法と字余り　…87
三　「四三調結句忌避」　……96
1　四三調結句忌避　…96
2　分節法の付則　…103
3　四三調結句忌避と字余り　…112
第二章　万葉集にみる字余りの原理　……118
第三章　古今集にみる字余りの原理　……137

第三部　付　論

第一章　「ならむ」と「なるらむ」――その一音の差　……167
第二章　和歌の分節法と字余り・非字余り　……186
あとがき　……201
本書に関連する拙著・拙論目録　……204